

に於ける初演のことであり、且又音楽それ自體の持つ異常な優美さも手傳つて、非常な感銘を與へたのだつた。但し技巧上この初演がどの程度に演奏されたのか當時の私には全然判断がつかかなかつたが、今だに多少共記憶に遺つてゐるところは、氏の指揮が相當以上に遅いテンポで、雄大、壯麗な楽曲をエンヤラ〜と終り迄重さうに引張つて行つたと言ふ感じがしたことであつた。それにしても、あの緩徐樂章や、バリトンのソロから分唱に這入る聲樂の劈頭のところなどは天籟的な艶麗さ優麗さを感じさせたものであつた。この音樂會が私に與へた感激は筆紙に盡し難い。

(野村光一「音樂青春物語」昭和二十四年 湖山社 五〇頁〔初版は昭和十七年 音楽之友社〕)

大正十年五月卅一日起案 決定 六月二日決行

紋勳内申案

本校外國人講師グスタフ、クローンハ大正二年一月聲樂管絃樂和聲論等ノ教師トシテ傭入レタ以來今日マデ八年半ノ間熱心ニ授業ヲ行ヒ其成績甚タ良好デ又本邦音樂ノ普及向上ニ盡シタ功績ガ顯著デアリマスカラ勳五等ニ紋シ旭日章ヲ授與セラレマス様上奏相成度此段内申致シマス

年月日

校長

文部大臣宛

(手書き)

(明治33〜昭和21年 叙位叙勳上申原議 人事係)

(五) マルガレーテ・ネトケ＝レーヴェ Margaretete Netke-

Löwe

在職期間 大正十三年〜昭和六年(一九二四〜一九三二)、昭和二十一年〜四十年(一九四六〜一九六五)

外國教師・傭外國人教師
担当科目 唱歌、独唱歌

履歷(要約)

一八八九年六月二十五日ドイツのプレスラウに生まれる。同地王立アウグスタ高等女学校を卒業し、英語教員免許状を取得。フランクフルトでヨハネス・メシヤールト教授、ライムント・フォン・ツル・ミュレンに師事し、ベルリンで独唱歌手となる。第一次大戦時は故郷プレスラウで唱歌教育にあたり、そのかたわら演奏活動を行い、画家マルティン・ネトケと結婚。

一九二四年(大正十三年)東京音楽学校に招かれ来日。東京音楽学校では長年にわたり教授活動を行う。昭和四十年退職の際には「外國人名譽客員教授」の称号を与えられた。昭和八年〜十五年に宮城学院女子専門学校講師、昭和十二年〜十九年には自由学園教師も勤め、日本にドイツ芸術歌曲の歌唱法を伝えた。

一九七一年(昭和四十六年)東京で没する。門下生には伊藤武雄、木下保、佐藤美子、立川清澄、田中信昭、長門美保、四家文子などがある。

樂壇に咲く國際美談

故國を迫られた恩師へ教へ子が慰安の催し

花形歌手總動員でけふ謝恩音樂會

國境を越え、人種を超えた師弟の恩愛が冬枯れの樂壇に美はしい謝恩の花を咲かせようとしてゐる——佐藤美子、澤智子、關種子、黒澤貞子、齋藤静子、岩谷廣子、徳山穂、藪田誠一等、等、現在我

樂壇の第一線に活躍しつゝある花形歌手をその教へ子に持つネットケ・レーヴエ夫人が、上野の音楽學校に於ける滿七ヶ年の長い教壇生活に別れを告げ、華やかな告別放送を最後に故國獨逸に去つたのは未だ音楽フアンの記憶に新しいところだ、併し幾許もなくして先生は再び懐しの日本に歸つて來た、先生はナチスのため故國を追はれたのであつた、何となれば先生の血の中にはユダヤ人の血が混つてゐたから……

思ひ出の國日本は再び先生を暖い腕で抱擁してはくれたが、以前の様な華やかな教壇生活をくり返すすべもなく今は芝白金三光町の自宅で個人教授に寂しいその日を送りつゝはや今年は滞日十年となつた、故郷にも容れられず異郷の空にわびしい餘生をすごしてゐる恩師を慰めてあげようといふ話が最近教へ子である佐藤美子、徳山璉、澤智子さん等の間に起り、かつての教へ子は勿論四家文子、平井美奈子、河原喜久恵、内田榮一氏等我樂壇を總動員して今夜帝國ホテル演藝場に華やかな謝恩音樂會を開くことになつたのだ

入場料全部は勿論恩師レーヴエ先生に進呈されるが、かつて先生の教へを受けた人達や音楽フアンに先生の名を甦へらせ、一人でも多くのお弟子が殖えれば……といふ温かい教へ子達の眞心と女らしい心遣ひに、先生の眼はともすれば濡れがちである

〔都新聞〕昭和十年一月二十日

〔奏任待遇についての上申案ならびに通牒〕

音席第三六號 大正十五年十月一日起案

上申案

本校備外國人教師シャールレス・ラウトルツプ外二人職務勤勉授業上ノ成績良好ナルヲ以テ身分取扱奏任ニ準セラル、様致度各本人ノ履歷書ヲ添へ上申致シマス

年月日

校長

文部大臣宛

〔外國人教師關係 自大正十一年至昭和十一年〕
〔手書き〕

大正十五年十月十三日

文部大臣官房 秘書課長印

東京音樂學校校長殿

通牒

東京音樂學校備外國人教師

獨國人 マルガレテ、ネットケ、レーウエ

露國人 ヨセフ、カガノフ

丁抹國人 シャールレス、ラウトルツプ

右三名儀自今奏任ニ準シ取扱ハル

〔和文タイプ〕

〔外國人教師關係 自大正十三年至昭和十一年〕

(六) ヨセフ・カガノフ (レオニード・コハンスキー) Josef Kaganoff (Leonid Kochanski)

在職期間 大正十四年〜昭和六年 (一九二五〜一九三二)

外國教師・外國人教師

担当科目 ピアノ